

人権なら

●ひと・まち・生き生き

2016年4月1日

第64号

NPO なら人権情報センター

第1回理事会を開催

組織活動の強化と法人運営のあり方を協議

3月23日、NPO法人なら人権情報センターの第15期第1回理事会を開催。

まず、開会にあたって植村理事長が「久々の理事会開催になることに厳しく反省しお詫びしたい。今後、適切・機敏な対応を心がけていく」と挨拶した。

報告事項として、

(1) 第7回奈良県「差別と人権」研究集会



(9月5日・田原本町青垣生涯学習センター)の関連では、10月28日に総括会議を開催し議論を行ったことなど報告。(2) 田原本町企業内人権教育推進協議会受託事業に関わっての活動を報告。(3) 2015年度男女共同参画に関する事業実施について報告。(4) 人権情報センターへの現地研修の依頼や講師派遣事業について報告。(5) 第36回水平社敬老会(10月18日・川西町コスモスホール)を実施し、各支局の高齢者270人の参加があり、多彩な出しモノに会場は大きな拍手と笑いに包まれたと報告。(6) 2015年度確定申告相談の説明会並びに相談会の実施状況について報告。今年も無事に相談活動を済ませることが出来たことを報告。(7) その他相談活動についての概要や実績を報告。生活や仕事などで起きるいろいろな問題での相談について報告した。議論では、「組織の運営について適切な理事会の開催の必要性が述べられた」。また、生活や仕事と密接にかかわった相談などは、NPOの活動として充実させ、「これを支局にも

反映させて支局の事業メニューとして連携していけるような方向性が必要ではないか」と、提起があった。

続いて協議事項に移り、今後の法人運営について議論。この4月1日から新年度のスタートを確認した。次に本法人の財政状況と、今後の法人運営の見通しについて協議。収支報告書等の資料を確認し徐々に厳しくなりつつある財政の現状を共有。次回理事会には、財源の根拠を明確した資料を準備して協議することを確認した。「第8回研究集会に向けて」については、第4回研究集会に続いて「依存症」を軸にテーマ設定を検討していることを報告。さらにもう一つ課題を検討する必要があるのではないかと意見があり、子どもの貧困の課題について、「教育現場での対応が薄れている現状があるのでは」と意見が出され、6月の実行委員会開催までに検討し、具体化していくことを確認して理事会を終えた。

***6月18日(土) 第16期総会開催へ！**

第3回役員会を開催

田原本町企業内人推協

3月18日、田原本町役場で第3回役員会を開催、総会日程等を協議した。役員会の冒頭、会長から「ご多忙の中、出席ありがとうございます」と挨拶があり開会。事務局から当日の議案について報告並びに提起を行った。第2回役員会以降の取組みを報告、確認。協議事項に移り、5月20日(土)午後3時半から青垣生涯学習センター視聴覚室で総会の開催を提案し確認。総会議案をそれぞれ確認し承認された。記念講演については、山下力・副理事長を提案し承認された。総会後に第1回役員会を開催することも決定された。

ハンセン病問題を学習

「ハンセン病問題」の歴史と今日的課題

3月10日、桜井市まほろばセンターで「ハンセン病問題 講演・学習会」が開催されました。主催は‘架け橋 長島・奈良を結ぶ会’。講師の畑野研太郎さんは、医師でハンセン病を専門分野とされ、海外医療協力会やJICAでバングラデシュやミャンマーの医療に携わってこられ、2009年から邑久光明園の園長、退職後は名誉園長をされています。

講演は、ハンセン病は細菌による慢性感染症で、多剤併用療法で簡単に治り、感染力は非常に弱く人にうつすことのない病気です。ハンセン病は末梢神経(体の表面)をおかし、火傷や外傷など普通に感じる痛みを感じない(傷ができたことがわか



らない)のでばい菌が入って感染したり消えない痕跡を残したりします。発見が遅れ適切に治療されないと障害の悪循環が起こり、後遺障害は回復者に生涯大きな苦痛となり、この障害が恐れや偏見や差別を生みます。免疫力の弱い赤ちゃんなど家族内感染が多く、「らいの筋」などと家族親族ごと忌避されました。「治療法がなく感染力が強い」という誤った認識で患者を摘発し隔離する「無癩県運動」や、31年の「癩予防法」制定で療養所への強制収容が始まり、「優生保護法」で不妊・断種手術が合法化され、43年にプロミンや多剤併用療法で治り・うつらないことがわかった後も「民族浄化」と称し国策として隔離収容が続けられました。こうしたことを踏まえて畑野さんは、ハンセン病問題とは、「強制隔離とスティグマ(負の烙印の押しつけ)・差別の強化—公権力による家族と社会との無縁化の強制、民族浄化(患者の「絶滅」計画・隔離して消滅を待つ)政策」とまとめられました。

現在療養所入所者は1671人、平均年齢は84歳(15年8月末)で、新たな発症例はない(WHO 世界

では年間20~25万人程度)。治療法が発見されていない時代にハンセン病になられ、重度の後遺症を残されている

方が多い。ハンセン病回復者の高齢化と減少で、「語り



部」が減り療養所入所者運動の限界が近づいている中、高齢化と後遺障害を抱えた回復者の支援を厚くすること、回復者の方々が強いられてきた苦悩の歴史を語り継ぎ、ハンセン病問題を一般化し関心を広める取り組みを進める必要があります。語り部運動の継承、家族の名誉回復の闘いの支援、療養所の保存、世界遺産登録運動などが課題として上げられました。

講演後は質疑応答、第31回架け橋美術展を開始した桜井市実行委員会からの報告がありました。

「ハンセン病」回復者支援の取り組みを!

感染力の弱さと治癒の簡単さの一方で、末梢神経障害の後遺障害は治癒後も自己の免疫が障害を攻撃し悪化するという悪循環に陥るということを知り、回復者は差別との闘いとともによ後遺障害との闘いも抱えていることを知りました。そしてハンセン病の無知と恐れが「患者」に負の烙印を押し、家族・社会からの絶縁を強制し、治り・うつらない病気であることがわかった後も「優性保護」とか「民族浄化」の名で隔離収容・絶滅政策がとられ現在まで至っていたという歴史的な経緯を胸に刻み、回復者の人生の支援と復権に向けた取り組みを広げなければならないと強く思いました。本名も故郷も隠して生きることを強いられてきた回復者の方々は長年にわたり療養所の処遇改善を闘い、差別と人権侵害を訴え、違憲訴訟や国賠訴訟を取り組んでこられ、ようやく光が見えてきたところです。こうした回復者の人生をかけた闘いをしっかり学び、何ができるか、何から始めるかを考え行動に移していきたいと思います。

(てらだ)

サンタピアップがイベント

カンボジアでの支援が10年目に！

3月12日午後1時から、三宅町「あざさ苑」において、今、届けたい想いと、歌、景色があります。『輝く命を未来につなぐチャリティーイベント』が開催されました。

このイベントは、カンボジアでの支援を続ける「NPOサンタピアップ(平和)」(代表・古川沙樹)の呼びかけで実行委員会が開催。会場には100人をこえる方が来て下さり、大いに盛り上がりま



した。開会あいさつ、サンタピアップ活動報告(DVD-ポイェトでの活動などを紹介)が第一部。あいさつの中では、カンボジアの子どもたちからのお礼や想いなども紹介された。休憩の時にはカンボジアのお茶とケーキが準備され、美味しいひと時を楽しみました。

透き通る歌声に感動

第二部が、メインゲスト「稚菜(わかな)ライブ」です。



2013年に単身カンボジアへ。はじめての音楽ボランティアで子どもたちと唄と音楽でふれあい、「カンボジアに音楽学校をつくりたい」と活動が始まった。最初の曲は「夢心・ゆめぐる」、カンボジ



アでの出会いを唄った「唄と音楽と」や「戦火の詩」など、静かで透き通る歌声に感動しました。『みそら屋』では、フォトグラファー・NANAME(ななみ)さんの写真展やカンボジア雑貨などの販売も行いました。「素敵な出会いと感動に！感謝！」、ありがとございました！

芸能発祥の地を訪ねて

桜井でフィールドワーク

「桜井市・日本芸能の発祥の地を訪ねて」をテーマに3月24日午前10時～フィールドワークが行われ、午前中だけ参加しました。天理市在住の村田正親さん「学びの会」が企画、呼びかけたもので、案内は井岡康時さん(県同和問題関係史料センター前所長)。

コースは、桜井駅-石寸(いわれ)山口神社-土舞台-安倍文殊院-桜井市図書館(昼食)、バスにて-多武峰・談山神社-摩尼輪塔-屋形橋-不動滝バス停-桜井駅。

午前中の地域は、古くから「横大路」が東西に走りこの辺りで上ツ道と交差する、交通の要所。その街道沿いには當麻、長谷寺があり、江戸時代には伊勢街道として多くの人の往来で賑わった。近世には材木の集散地として、地域経済を支えた。



風があり少し肌寒く感じられましたが、気持ちよく歩きました。桜井市谷の石寸(いわれ)山口神社は、「延喜式」にみられ県内に14座あるうちのひとつといわれている。土舞台は、すこし小高い丘に開けた所にある。「日本書紀」(推古天皇20年)によると、「百済の人が桜井で、技楽の舞という芸能を伝えた」と記され、この「技楽の舞(インド・チベットの仮面劇)」の伝習が行われた場所とされている。次に「安倍文殊院」へ、日本三大文殊の一つ。本尊の木造騎獅文殊菩薩像は、鎌倉時代の代表的仏師快慶の作とされ、国指定重要文化財。桜井市阿部付近を本拠地にしていた古代豪族阿部氏は、古くから祭事や占いなどを担当した。こうした背景に平安時代になると安倍晴明のような陰陽師が出現することになった。室町時代、奈良町では声聞師(しょうもじ)とよばれる陰陽師が現れ、占いや暦などを作成したことが記録に残る。また、吉志舞(きしまい)など芸能との関わりも興味深い。

市民連合を結成

参議院選での、野党統一候補の実現へ！

3月18日、奈良県文化会館で「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合・奈良(略称:市民連合・奈良)」の結成集會が行われ、500人を超える参加者で会場が人であふれた。



結成集會では、「市民連合・奈良設立に向けた基本的な考え方(経過報告)」と、「趣意書(案)」の提案が事務局からあり拍手で採択。共同代表に、「戦争をさせない1000人委員会」から浅野詠子さんと「憲法9条守れ！奈良県共同センター」の溝川悠介さんの2人を選出。そして浅野共同代表が「参議院選挙に向けた野党共闘について(要請)」を朗読して提案し、溝川共同代表より各党代表に要請書が手渡され、各党から賛同のメッセージがあった。

この後、特別講演に移り、「戦争法と自衛隊」のテ

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『語り始めた子供たち』(朝日TV 報道ステーション・特集)当時小学6年生だった子どもたちが「胸の内を」語ることを通じて、自分を再発見していく姿を追ったもの。そして、『風の電話～残された人々の声』(NHKスペシャル)を見た。岩手県大槌町の海を見下ろす丘に置かれた「風の電話」。震災で会えなくなった家族や友人ともう一度言葉を交わしたいと願う人びとがここを訪ね、線のつながっていない受話器を通じて「会話」をする。…風の電話でささやかれるいくつもの心の声に耳を傾けた。切り口は違うが、どちらも体が強張り切なく涙を流した。憤りが白くゆらめく。

マで元陸自レンジャー隊員の井筒高雄さんより提起がされた。講師の井筒さんは、自身の入隊体験から自衛隊員は特別国家公務員の立場で、これまでは専守防衛を前提に契約書に拇印を押し許可され隊員となってきた。安保法の成立で専守防衛が覆り契約事項とは全くそぐわなくなっていると指摘。現在の自衛隊は、専守防衛の備えしかしていない。国外で戦闘する装備など何も準備されておらず、自衛隊の立場も軍隊ではない前提からすると国際法や国連の協定など捕虜の取り扱いからも除外されることになりかねない。安倍政権は、全く自衛隊の実態や国際法等の環境を踏まえ、無視する形で「安保法制」を推し進めようとしていると結んだ。



■橿原市男女共同参画推進条例制定10周年記念事業。【映画上映会&講演会】何を怖れる～フェミニズムを生きる女たち・ドキュメンタリー映画 ○ 上野千鶴子さん講演会・日本の女は幸せになったか？

日時 5月29日(日) 開場11:45～

場所 かしはら万葉ホール5F・レセプションホール

申込み かしはらナビプラザ4階男女共同参画広場

0744-47-3090 (定員 200人)

託児 (事前の予約が必要です！)

問合せ 橿原市役所・人権施策課男女共同参画係

0744-21-1090

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail: info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/